

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和7年(2025) 1月

Vol.109

CONTENTS

- 1～3 人と防災未来センター
MiRAi
- 4 HAT神戸掲示板
- 5 地域支援活動の実際～災
害支援を中心に～
- 6 南海トラフ地震及び首都
直下地震を対象とした被
害軽減に関する研究
- 7～8 情報ひろば

人と防災未来センターニュース **MiRAi**

阪神・淡路大震災30年特別展示を開催しています

人と防災未来センターでは、令和7(2025)年1月17日
に阪神・淡路大震災から30年を迎えるに当たり、特別展示
「1995.1.17から30年。あらためて知る 阪神・淡路大震
災」を3月30日(日)まで開催しています。

「30年を振り返り未来を展望する30コラム展」と題して、

震災からの30年の歩みを30のテーマごとに展示パネルで
紹介しています。

阪神・淡路大震災について改めて考えていただく機会と
なる企画展です。皆さまのご来館をお待ちしています。

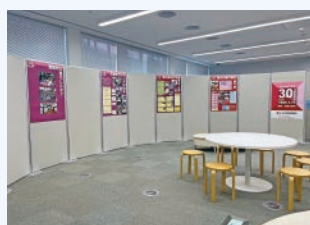
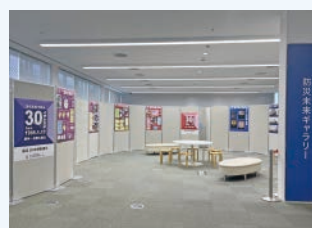
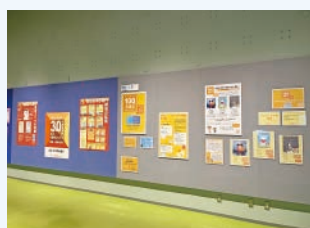
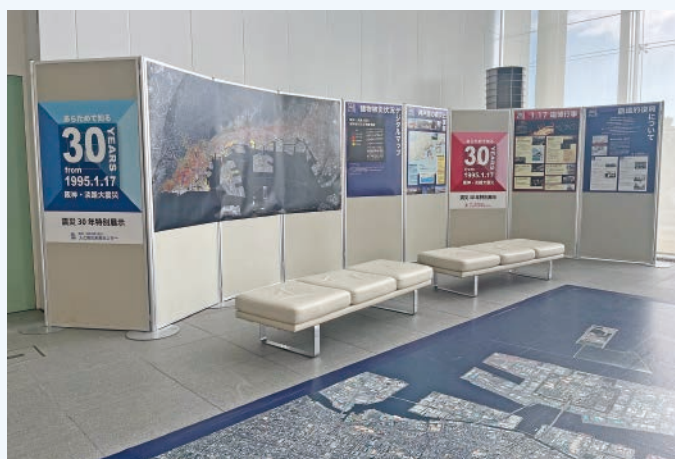
人と防災未来センター会場

タイトル：1995.1.17から30年。あらためて知る 阪神・淡路大震災～30年を振り返り未来を展望する30コラム展～

期 間：令和7(2025)年1月4日(土)～3月30日(日)

会 場：西館1階ロビー、西館2階防災未来ギャラリー他

料 金：西館1階ロビーは無料、その他は入館料金のみ必要



兵庫津ミュージアム会場でも開催しました

兵庫津ミュージアム会場では「1995.1.17から30年。あら
ためて知る 阪神・淡路大震災～そのとき・あゆみ・みらい～」
をテーマに、令和6(2024)年12月21日(土)から同7(2025)
年1月19日(日)まで開催しました。

当センター資料室が収集保存する実物資料、写真資料と
グラフィックなどを展示し、多くの方にご来場いただきました。



資料室企画展「震災のポスター展」を開催しています

人と防災未来センター資料室では、所蔵している震災資料を活用した企画展を年に1度開催しています。今回は、「震災のポスター展」と題し、令和6(2024)年12月3日(火)から令和7(2025)年5月25日(日)まで西館5階資料室(無料ゾーン)で約25点を展示しています。

阪神・淡路大震災が発生した際、地震の被害状況やライフラインの復旧見通し、生活再建に向けた支援などさまざまな情報が求められました。被災者はこれらの情報をテレビやラジオ、新聞、口コミ、広報紙などを通して入手し、ポスターもそんなメディアの一つでした。また避難所では、円滑な運営や秩序を守るためのツールとしても活用されました。

【展示資料例】

- ・「避難所 個別面談調査のお知らせ」ポスター
- ・お知らせうあ者の被災者のみなさんへ(貼り紙)
- ・灘わくわくパズル(ポスター)
- ・STEP BY STEP FESTAポスター

※展示資料は入れ替えることがあります。時期については当センターホームページ、もしくは資料室のFacebookにて告知しますのでご確認ください

この企画展では、被災地で生まれたポスターを「避難生活」「支援」「イベント」「復興」の4つのテーマごとに展示しています。これらのポスターから避難所や仮設住宅での生活風景や公的支援の取組、そして被災地が歩んだ復興への道のりをのぞいてみましょう。



■お問い合わせ

人と防災未来センター西館5階 資料室

(開室時間9:30~17:30、月曜日閉室)

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

※資料室はどなたでも無料で利用いただけます

令和6(2024)年度秋期災害対策専門研修 マネジメントコースを開催しました

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ4,248人が受講し、受講生からは高い評価を得ています。

今回の秋期研修においては、中堅職員を対象としたエキスパートA、エキスパートBの2コースを実施しました。

アンケートでは、「実務に直結する内容が多く、具体的な事例を交えた話が多かった」「いくつかの災害現地での実際の活動を通じた概論と各論が分かり、標準化できる部分での学びがあった」「自分が経験してきた防災に関する取組の再確認をできたこと、新たな知識を得ることができ、今後の業務、防災への取組に生かせる意欲ができた」「防災部局に配属されてからの知りたいことが詰まっていた研修でした」「数日にわたって防災に特化した研修を受

講することが初めてだったので、新たな知識を深めるとともに、持っていた情報の再確認ができた」「防災に携わる行政職員として、必要な知識や考え方、心構えを幅広く学ぶことができた。多様な先生からの講義に加えて、他自治体の職員からのお話を聞くことができた。振り返りの時間も十分に確保いただき、自分になかった視点が得られ、質の良い振り返りができた」等の意見を頂きました。

また会場開催であったため、「職場に持ち帰って生かせる事項が多くあったこと、他の自治体と顔の見える関係をつくることができ、今後相談をしやすくなった」「防災に関する知識を深める一方、顔の見える関係として全国の知り合いができて良い研修となりました」「他の組織の活動が聞けたこと、顔見知りになれたことが良かった」等の意見も頂きました。講義、演習による知識向上だけでなく、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。



コース名	日程	修了者数
エキスパートA	10月8日(火)~11日(金)	25人
エキスパートB	10月15日(火)~18日(金)	23人
合計(延べ)		48人

令和6(2024)年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 表彰校・発表会を開催しました

当機構が、兵庫県・毎日新聞社と共催し、学校や地域で取り組む先進的な防災教育や防災活動を顕彰する、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会を令和6(2024)年12月21日(土)に兵庫県公館で開催しました。

全国各地から108校・団体の応募があり、各部門の「ぼうさい大賞」「優秀賞」「奨励賞」に加え、特別賞として「大震災対策賞」「URレジリエンス賞」「はばタン賞」「だいじょうぶ賞」「フロンティア賞」「継続こそ力賞」を選考し、計49校・団体が受賞されました。

各部門の「ぼうさい大賞」受賞団体から1団体に贈られるグランプリに選ばれたのは、「小学生の部」の「宮城県岩沼市立玉浦小学校」です。

東日本大震災で岩沼市は死者149人、全戸停電・断水という大きな被害を受けました。玉浦小学校ではこの経験で学んだ「命の大切さ」を意識し、宮城県で震災後に作成された「未来へのきずな」を活用した12回の防災学習を全学年で実施。さらに、総合的な学習の時間には3学年「校

舎防災マップ」、4学年「岩沼の災害の歴史を調べよう」、5学年「通学路防災マップ」、6学年「未来の玉浦を考えよう」と身近な防災から、玉浦地区が今後ますます復興していくための未来図を描くという系統的な学習を行ってきたことなどが評価され、見事グランプリに輝きました。

また、和歌山県立熊野高等学校はJRきのくに線と田辺市による合同避難訓練に参加し、率先避難者として列車を下りて地域の方々と駅から市役所へ走り時間を計測するなど、南海トラフ地震や首都直下地震への対策にもつながる取組が認められ、「高校生の部」の「ぼうさい大賞」と共に、本年度新設した「大震災対策賞」も受賞しました。

なお、受賞校の取組は、特設ウェブサイト(<http://bousai-koushien.net/>)でご紹介しています。ぜひご覧ください。

また、兵庫県内の小・中学生、高校生を対象に行われた「防災力強化県民運動ポスターコンクール」の表彰式も併せて開催されました。



賞名	部門	都道府県	校・団体名
グランプリ	小学生部門	宮城県	岩沼市立玉浦小学校
ぼうさい大賞	中学生部門	大阪府	泉南市立西信達中学校
	高校生部門	和歌山県	和歌山県立熊野高等学校
	大学生部門	静岡県	静岡大学教育学部藤井基貴研究室
	特別支援学校・団体部門	千葉県	千葉県立香取特別支援学校



ぼうさい甲子園
特設ウェブサイト

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:600円(450円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(200円) 大学生:200円(150円)

高校生、中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休

※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

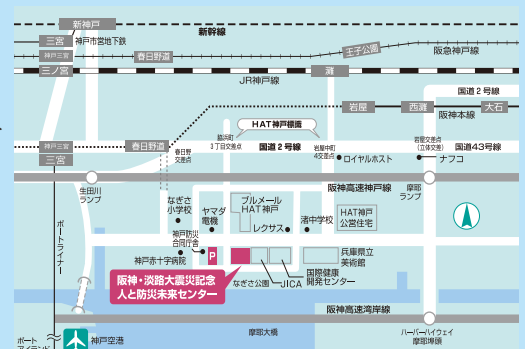
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり



HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

コレクション展Ⅲ

阪神・淡路大震災30年「あれから30年ー県美コレクションの半世紀」

当館では震災以降、5年、10年、20年という節目の年にコレクション展を中心に震災に関連する企画を開催しました。30年目を迎える本年は、特別展、チャンネル展と連動し、美術館全体で震災30年を考える展示を行います。加えて、兵庫県立美術館の前身である県立近代美術館が開館して55年＝約半世紀となることから、当館のコレクションを改めて振り返る機会とします。

■会 期＝4月6日(日)まで

■観覧料＝一般500(400)円、大学生400(300)円、高校生以下無料、70歳以上250(200)円、障害者手帳等をお持ちの方(一般)100(100)円、障害者手帳等をお持ちの方(大学生)100(50)円

※()内は団体料金

※一般以外は要証明書

◎休館日＝月曜日[ただし2月24日(月・振休)は開館、2月25日(火)は休館]

◎開館時間＝10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ TEL 078-262-1011



福田美蘭
《淡路島北淡町のハクモクレン》
2004年 アクリル・カラー写真・板

JICA関西

◆国際協力?SDGs?JICAかんさい地球ひろば!

JICAかんさい地球ひろばでは、SDGsや国際協力、世界・異文化について理解を深め、考え、動き出すきっかけになることを目指し、見て・触れる常設展や企画展を公開しています。



入場無料ですので、皆さま、お気軽にお立ち寄りください。

2024年12月からは、阪神・淡路大震災から30年となる機会を捉え、世界の災害被害軽減に向けた日本の国際的な協力について展示しています。

◆食えることから始める国際協力!

JICA関西食堂の
月替わりエスニック料理

完全禁煙、お子様連れも大歓迎で、どなたでもご利用いただけます。月替わりのエスニック料理は、いつもご好評いただいています。世界の料理をぜひ味わってください。

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー

■定 休 日＝年中無休(年末年始を除く。)

※詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>



1月は世界のミックスプレートです



JICA関西食堂の詳細はこちらから

◎問い合わせ

TEL 078-261-0341

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/index.html>



日本赤十字社 兵庫県支部

災害への備えは大丈夫ですか?

30年前に発災した阪神・淡路大震災では、地域住民による自発的な救出・救助活動により多くの命が救われ、全国各地からもボランティアが駆け付ける等、「自助」「共助」の重要性が強く認識されるきっかけとなりました。

日本赤十字社では過去の災害の経験と教訓から、将来、発生が予測されている大規模災害から人々のいのちを守るために、ご自身とご家族を守る「自助」の力と、地域にお住まいの皆さんが協力して難局を乗り越える「共助」の力が極めて重要だと考えています。

日本赤十字社が開催している「赤十字防災セミナー」では、自分の街で災害が発生した場合に想定される被害や避難生活等の課題を具体的にイメージしながら、命を守るさまざまな方法を地域に密着した形で学ぶことができます。皆さん一人一人が災害と向き合い、被害をより小さくするために必要な「備え」について一緒に考えてみませんか。

詳しくは兵庫県支部のホームページをご覧ください。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/jrcs-seminar/> →



ゲーム感覚でできる安全対策(KAG)をご紹介します。

<https://www.jrc.or.jp/lp/save365/magazine/popeye03/> →

※SAVE365Magazineにて赤十字の活動をお届け中!



「人間のいのちと健康・尊厳を守る」赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって成り立っています。

活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> →



※日本赤十字社に対しての寄付の場合、金額に応じ、税制上の優遇措置や紺綬褒章・大臣表彰等の対象となります

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫 検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

兵庫県こころのケアセンター 地域支援活動の実際～災害支援を中心に～

兵庫県こころのケアセンターでは、国内外の災害および、事件・事故で被害を受けた個人・組織に「こころのケア」に関する助言を行っています。現地に出向いてコンサルテーションや支援者支援を展開。コロナ禍以降は、オンラインで対応している場合もあります。

また、相談室と診療所は、トラウマやPTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する専門相談や治療を担っています。関係機関から、虐待やDV、犯罪被害者に対する支援や支援者支援の相談も増加し、関係機関との調整が必要な対応が増えていきます。

継続した地域支援活動

①災害等支援(国内)

- ・東日本大震災や熊本地震等に対し、支援者支援のための講演、研修での継続支援
- ・大規模災害に備えた防災担当者向けの講演
- ・消防職員への惨事ストレス対応など

②国外への支援

- ・ウクライナ避難民の支援に係る兵庫県へのオブザーバー

③災害以外の支援

- ・虐待に対応する児童相談所職員への事例検討のオブザーバーや支援者支援など
- ・職場のハラスメントに対する研修など



災害対策本部の様子

災害支援に向けての活動

〇ひょうごDPAT体制整備事業

主な内容は、平成26(2014)年に発足した「ひょうごDPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team:大規模災害発生時に、精神科医療および地域精神保健活動の支援を行う専門チーム)」に対する①研修会の開催②災害派遣物品の保守・管理です。能登半島地震のように、県外派遣には国が実施している研修を受け、先遣隊に登録したチームが派遣されます。兵庫県からは、令和6(2024)年1月9日に病院チームが派遣され、その必要物品の準備を支援しました。また、2月23日には当センターとの合同チームが現地の災害対策本部の支援に出向きました。

なお、県内で災害が発生し、支援が長期化する場合は、先遣隊の活動後、ローカルDPATが引き継ぎます。研修では、ローカル隊が災害発生時から活動できるように、平時からの準備や訓練も含めた項目を、講義、演習等を通して実施します。研修内容は、昨年新たに誕生した2人のDPATインストラクターと検討し、DMATをはじめとする関係機関の協力も得ています。

今年は、阪神・淡路大震災から30年の節目の年になります。今まで行ってきた支援と合わせ、さらなる防災、減災の取組を強化できるように県内外に発信していきます。



DPAT隊のマーク

こころのケアの主な活動実績

- ・JR福知山線脱線事故(H17年)
- ・新潟県中越沖地震災害(H19年)
- ・東日本大震災(H23年～)
- ・西日本豪雨災害(H30年～)
- ・能登半島地震災害(H19年)
- ・兵庫県西・北部豪雨(H21～24年)
- ・熊本地震(H28年～)
- ・能登半島地震(R6年)
- ・スマトラ島沖地震における津波災害(H17年)
- ・中国四川大震災(H20～23年、H25～26年)
- ・ニュージーランド地震(H23年)
- ・マレーシア航空機事故(H26～27年)
- ・チリ大地震(H27～29年)
- ・トルコ地震(R5年)

南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究

研究戦略センターでは、巨大災害に備える研究として、「南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究(令和4～6年度)」を行っており、研究会3年目の最終年度として最終報告書をまとめている段階です。

南海トラフ地震部会(まちづくり分科会・停電分科会)

主任研究員●朴 延

「まちづくり分科会」は、越山健治・関西大学教授をリーダーに計8人の建築・土木専門の研究者で構成されています。本分科会では、まず、これまでの防災・復興「まちづくり」に関係する研究課題を各分野から提示し、南海トラフ地震において取り組むべきまちづくりの課題を整理しました。南海トラフ地震からの復興を考えるに当たっての基礎データ構築を目的として、GISデータ(地理情報システム)に統計データなどを重ね合わせたシミュレーションマップの作成を行うこととしています。人口減少社会の中で、5年後、10年後の人口分布も押さえながら、被災を受けたエリアでの人口の移動などを分析する予定です。また、能登半島地震、豪雨災害とたて続けに起こった災害によって、いまだに生活インフラの復旧もままならない集落がある中で、まちづくりの観点から集落の再生方策についても議論をしています。

「停電分科会」は、奥村与志弘・関西大学教授をリーダーに計5人の研究者で構成されています。本分科会では、南海トラフ地震の人的、社会・経済的被害の「相転移(劇的

かつ不連続に被害が拡大する社会現象)」をもたらす要因を停電の観点から最終報告書にまとめる予定です。特に、南海トラフ地震に向け、「将来の災害における相転移をどのように見つけるか」が主眼です。能登半島地震では、強い揺れを受け、住宅が倒壊して被害が大きかったというだけでなく、災害関連死を防ぐという観点から新たな教訓についてさまざまな提言も行っています。特に、相転移を発生させない方策や相転移が発生した場合の被害軽減策を提案することを目標にしています。

南海トラフ地震部会は、毎月のように研究会が開催されており、河田恵昭・人と防災未来センター長を総括として、「いかにして被害を減らすか」という研究アドバイスを受けながら進めています。これまでの研究成果から、最終報告書をまとめていきます。



首都直下地震部会(初動対応分科会・BCP分科会)

主任研究員●米川 安寿

首都直下地震部会では、首都直下地震の被害とその軽減策を学術的に解明し、提言を通じた政策への研究成果の反映を目指します。部会は、中林啓修・日本大学准教授をリーダーとした計4人の研究者から成る「初動対応分科会」と、渡辺研司・名古屋工業大学教授をリーダーとした計7人の研究者から成る「首都圏直下型地震を見据えた大都市圏の社会経済を支えるBCPの在り方分科会(以下、BCP分科会)」の2つの分科会で構成されています。

「初動対応分科会」では、防災や避難に関する住民の意識についての実証分析や、消防団員の充足状況、自衛隊との自治体連携の在り方、医療・福祉施設の災害時の対応について調査を進めています。このうち東京23区民の意識調査の結果、東日本大震災後に8割近い人々が防災・減災、また首都直下地震への意識が高まっているものの、備蓄率は区ごとに差が見られることが分かり、これには区の防災活動や広報等も影響しているのではないかと考えられました。また、23区内での消防団の認知や勧誘状況については、一人暮らしや女性、学生への周知に課題があることが分かり、広報対象の考察につながりました。自衛隊の災害派遣に関しては、過去の災害における自衛隊の派

遣人数を比較し、大規模災害では段違いに大きくなることを確認し、首都直下地震での派遣規模についての議論を行いました。医療・福祉施設の研究では、大規模災害時には高齢化が原因となって初動対応における医療への負荷が増大し、サービス低下や停止につながる可能性も検討しておく必要があることが議論されました。

次に「BCP分科会」では、都市の人流・物流・金流・情報流に関わる動的リスクを可視化し、都市機能を支える重要インフラ事業者、自治体等のBCP(事業継続計画)の戦略策定および意思決定に資する情報を共有する官民連携の枠組みの在り方について研究を進めています。なかでも、帰宅困難者対策における自治体と鉄道事業者の連携の枠組みに着目し、鉄道事業者が所有する鉄道利用者数のリアルタイムデータを自治体の帰宅困難者対策の意思決定に活用するための方策に関する検討を東京都特別区長会研究会と連携しながら進めています。



情報ひろば

研究戦略センター

21世紀減災社会シンポジウム「阪神・淡路大震災30年～『大災害の時代』へ継承すべきこと」のご案内(来場+オンライン視聴)

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えました。

ひょうご震災記念21世紀研究機構は、戦前戦後を通じて防災報道を重視してきた朝日新聞社と共同で、「防災・減災」をテーマとしたシンポジウムを開催しています。

今回は、兵庫県の地域報道を担う神戸新聞社とも連携して震災後30年の歩みを振り返るとともに、能登半島での災害対応に生かされた教訓と今なお残る課題を考察します。

当シンポジウムは、現地開催とともに、YouTubeでライブ配信します。ぜひご来場またはご視聴ください。

- 日時＝令和7(2025)年2月8日(土)13時30分～17時
- 会場・配信場所＝神戸朝日ホール(神戸市中央区浪花町59)
- 参加＝無料、要事前申込
※来場申込は先着150人まで
※視聴申込者には視聴用URLを送信(視聴可能期間:2月14日(金)まで)
- 主催＝ひょうご震災記念21世紀研究機構、朝日新聞社
- 共催＝神戸新聞社
- 後援＝内閣府政策統括官(防災担当)、総務省消防庁、兵庫県、神戸市、関西広域連合
- 内容
 - 基調講演「大震災30年 ～震災を振り返り、これからの災害に立ち向かう」
講師 室崎 益輝(神戸大学名誉教授)
 - 被災地からの報告「能登半島地震から1年 ～現地からの報告」
報告者 上田 真由美(朝日新聞社金沢総局記者)
 - パネルディスカッション「能登へ、南海トラフへ ～新たな世代が引き継ぐ教訓と課題」
コーディネーター 御厨 貴(ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長/東京大学名誉教授)
パネリスト 阪本 真由美(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授)
門脇 幸子(兵庫県教育委員会震災・学校支援チームEARTHメンバー/西宮市立浜脇小学校栄養教諭)
頼政 良太(被災地NGO協働センター代表/関西学院大学人間福祉学部助教)
長沼 隆之(神戸新聞社論説委員室副委員長)
- 申し込み方法＝右記のQRコードを読み込み、申込フォームからお申し込みください。

〔会場参加 申込QRコード〕 〔オンライン視聴 申込QRコード〕



【問い合わせ】

研究戦略センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuutsu@dri.ne.jp

Webマガジン

Wonderful KOBÉ

2巡目の神戸。
明日は今日よりちょっと
幸せになる。

季節の特集、食や暮らし、
SDGsの話題に、毎日更新
するパントリーコーナーも。
会員登録不要です。



ワンダフルコウベ編集部
〔運営:株式会社 神戸新聞総合印刷〕

「21世紀文明シンポジウム」開催のご案内

気候変動問題が自然や人間、社会に及ぼすさまざまな“危機”とその影響について、多様な面から考察し、行政や地域・市民の具体的な行動につなげます。

- テーマ＝「気候危機と社会の行方」
- 日時＝令和7(2025)年2月18日(火)
- 場所＝ラッセホール(神戸市中央区中山手通4-10-8)
- 定員＝150人※オンライン配信併用
- 内容
 - 基調講演(13時40分～14時50分、質疑応答含む)

「環境、経済から気候危機を考える」
諸富 徹(京都大学大学院経済学研究科教授)
 - パネルディスカッション(15時～16時50分)

コーディネーター 諸富 徹(基調講演講師)

パネリスト 山野 博哉((国研)国立環境研究所生物多様性領域上級主席研究員／
東京大学大学院理学系研究科教授)

工藤 泰子(元日本気象協会主任技師/気象予報士)

関山 健(京都大学大学院総合生存学館教授)

三上 直之(名古屋大学大学院環境学研究科教授)
- 申し込み方法＝右記のQRコードを読み込み、申込フォームからお申し込みください。

〔会場参加
申込QRコード〕



〔オンライン視聴
申込QRコード〕



【問い合わせ】

研究戦略センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp

研究情報誌「21世紀ひょうご」第38号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。3月発行予定の第38号の特集では、「教訓から学び、次なる災害に立ち向かうー阪神・淡路大震災30年を迎えてー」をテーマに取り上げます。防災・減災面に阪神・淡路大震災が残した成果や教訓、東日本大震災や能登半島地震などの現場から見えた課題などから、今後の南海トラフ地震等への備えや対応の在り方などについて、災害ボランティアや防災教育、防災まちづくり、ライフライン被害、事業継続など幅広い観点から考えます。

【内容】

■巻頭言 河田 恵昭((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長)

■特集 「教訓から学び、次なる災害に立ち向かうー阪神・淡路大震災30年を迎えてー」

〈執筆者〉

渥美 公秀(大阪大学大学院人間科学研究科教授)
阪本 真由美(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授)
加藤 孝明(東京大学生産技術研究所教授)
楢田 泰子(神戸大学大学院工学研究科教授)
渡辺 研司(名古屋工業大学大学院社会工学科教授)

〈特別寄稿〉

竹口 隼人(工学院大学教育推進機構基礎・教養科助教)

■トピックス

- ・第25回アジア太平洋フォーラム・淡路会議
- ・第13回自治体災害対策全国会議

▶B5判 約120ページ

▶発行＝年2回

※既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください

<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>

▶購読料＝800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp



Hem21NEWS
vol.109

令和7年1月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)

<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください